

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	23221009	研究期間	平成23年度～平成27年度
研究課題名	地形・土壌・植生の入れ子構造的発達をふまえた流域水流出特性の変動予測	研究代表者 (所属・職)	谷 誠（京都大学・農学研究科・教授）

【平成26年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○ A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

（意見等）

時間経過により変化する要素に着目した斜面流域水流出の研究で、①植物の成長を含む数年以上の期間の蒸発散シミュレーション、②降水時の圧力水頭変化に関わる深い帯水層存在の効果の発見と、新洪水流出モデルの提案、③土壌層発達への根系と水みち効果のシミュレーション、斜面の削剥速度の宇宙線核種の応用計測、④比較水文学的手法により流出の地域性解析等で、観測成果とシミュレーション作成の面で優れた成果を示し、国際学会における評価も高い。研究の着実な進展が見られ、これまでの成果は基礎・応用両面で十分な価値を持つ。第四紀学的長期的環境変動の影響が未知で定量化には困難も予想されるが、これまでの研究でも災害予測などで十分な成果が期待できる。